



夏に流行る子どもの感染症

1. 夏に子どもがよくかかる「夏風邪」はどのような病気ですか？

ヘルパンギーナ、手足口病、咽頭結膜熱(プール熱)の主に3つがあります。

2. これらの病気の原因はなんですか？

主に「エンテロウイルス」と「アデノウイルス」が原因です。

3. どのようにして感染しますか？

飛沫感染(せきやくしゃみなど)や、接触感染(ウイルスのついた手や鼻をさわるなど)でひろがります。



4. ヘルパンギーナの症状は？

突然の発熱、のどの痛み、のどの奥の水疱(水ぶくれ)などです。

5. 手足口病の症状は？

口の中、手のひら、足の裏や甲などにできる2~3mmの水疱です。発熱したとしても微熱程度のことほとんどです。



6. 咽頭結膜熱(プール熱)の症状は？

発熱、咽頭炎(のどの痛み・発赤)、結膜炎(目の充血・めやに)の3主症状です。高熱が5日程度続くことがあります。多くの場合軽症のまま自然に治ります。

7. 予防は？

手洗いやうがい、タオルを共有しないことです。プールの際は、プールの前後のシャワーと、プールの後のうがいなどです。